

第5回 安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討委員会

- 1．提言案概要(1)(2)
- 2．河川維持管理計画等の位置づけ
- 3．河川環境管理基本計画等の位置づけ
- 4．排水ポンプの運転調整のあり方

1. 提言案概要(1)

現状と課題

河川の維持管理の現状と課題

河川、堤防の現状と課題

- 河川は様々な要因、時間スケールで状態が変化する自然公物
 - 堤防を構成する土の品質が不均一
-
- 河川の状態を見(診)て状態の変化を分析するきめ細かな維持管理

排水機場、水門等の現状と課題

- 水門や樋門、排水機場等の修繕・更新とこれに伴う費用の急増
-
- 効果的・効率的な施設の点検と計画的な更新

中小河川の維持管理の現状と課題

- 中小河川の維持管理水準の幅は広く、維持管理内容も多様
-
- 周辺状況等の特性を踏まえ、最低限必要な事項は確実に実施

河川環境にかかる維持管理の現状と課題

- 河川環境に関する現状把握が不十分で、目標設定も困難
-
- 河川環境管理計画の見直し等による、河川環境の管理の必要性

地域特性を反映した維持管理の現状と課題

- 地域特性に配慮し、河川に対する多様なニーズに応える必要性
-
- 日常管理、出水時における市町村や地域住民、NPO等との連携

危機管理の観点からみた河川管理の現状と課題

現在の河川管理施設の能力を超える外力への対応

- 河川管理施設の操作、維持管理について、被害の最小化を目的とした対応が必要
- 河川管理者と市町村や地域住民、NPO等との情報共有化や避難行動支援のための体制が必要

事故・テロ等への対応

- 被害の拡大防止、住民への情報提供、他機関と連携した危機管理体制など、体系的な検討が必要

河川の維持管理の基本的な方向

根幹的対策としての維持管理の位置づけ

- 維持管理の目標や、河川特性に応じた実施内容を明確化

信頼度(河川の品質)管理型の維持管理の展開

- 河川の状態変化に応じた効果的・効率的な維持管理の実施

維持管理にかかる計画の充実と実施体制の再構築

- 河川整備計画の維持管理の充実
- 維持管理に関する計画の策定と維持管理基準の整備
- 総合的な管理のための実施体制の再構築

効率的な維持管理の展開

- 「見つける(診る)技術」の再構築・向上
- 維持管理技術の高度化の推進

河川環境管理の推進

- 河川環境管理基本計画に基づいた河川環境管理
- 河川環境管理のための目標や管理基準の設定

河川や地域の特性を反映した維持管理の実現

- 市町村や地域住民、NPO等との積極的な連携・協働
- 許可工作物の適切な維持管理

危機管理の観点からみた河川管理上の基本的な方向

河川管理者と地方自治体との情報共有の強化

- 非常時のみならず平常時、地方自治体の長との情報共有の強化

広域的な氾濫への対応

- 国、都道府県、市町村等の役割分担の検討と関係機関の連携強化

都市水害への対応の充実

- 排水機場の運転調整ルールの実効性の確保

大規模出水、津波等に対する被害最小化策の充実

- 河川管理施設の構造や運用の見直しによる被害の最小化

水質事故対策の充実

- 迅速な情報伝達体制の確立と河川管理施設等の運用の見直し

1. 提言案概要(2)

河川の維持管理上の具体的な施策

1. 維持管理にかかる計画の充実と実施体制の再構築

- (1) 河川整備計画の維持管理の充実
 - ・維持管理の具体的な内容を河川整備計画に記述
- (2) 維持管理に関する計画の策定
 - ・河川維持管理計画、河川維持管理実施計画を作成
- (3) 維持管理基準の整備
 - ・河川が適正に維持されるための具体的な状態の目標(維持管理目標)と、河川の状態の変化を把握するための調査・測量等の目的・意義や具体的な監視の頻度や密度(実施内容)から構成
 - ・現場における試行とその結果を踏まえて精度向上、内容拡充
- (4) 総合的な維持管理のための実施体制の再構築
 - ・サイクル型維持管理体系の確立
 - ・多様な主体との連携・協働を通じた維持管理の実施
 - ・維持管理の実施体制

2. 効率的な維持管理の展開

- (1) 「見つける(診る)技術」の再構築・向上
 - ・技術研修や情報交換の充実
 - ・研究機関等との連携
 - ・維持管理業務の支援体制の検討
- (2) 維持管理技術の高度化の推進

3. 河川環境管理の推進

- (1) 河川環境管理にかかる戦略的な仕組みづくり
- (2) 河川環境を管理するための目標の設定
- (3) 工事实施に伴う影響予測の高度化

4. 河川や地域の特性を反映した維持管理の実現

- (1) 環境分野における市町村、地域住民やNPO等との連携・協働の推進
- (2) 双方向コミュニケーションの仕組みづくり
- (3) 河川の魅力を引き出し、次世代を育む仕組みの検討
- (4) 中小河川の特性を踏まえた維持管理の支援
- (5) 先導的な維持管理にかかる取り組みの普及・向上
- (6) 許可工作物への適切な対応

危機管理の観点からみた河川管理上の具体的な施策

1. 河川管理者と地方自治体との情報共有の強化

- ・河川管理者と地方自治体の長との間で、予め具体的な情報伝達手段、危険度の情報を共有化
- ・河川管理者から地方自治体の長へのアラーム機能・ホットライン機能強化

2. 広域的な氾濫への対応策の検討

- ・国民保護法も参考に、避難指示や氾濫流の制御のあり方を検討
- ・自衛隊等関係機関との連携による広域オペレーションを展開する仕組みを検討

3. 都市水害への対応の充実

- ・排水機場の運転調整の実効を図るため、リスクコミュニケーション、関係者間の合意の枠組み構築
- ・内水氾濫を含めた総合的なハザードマップの作成を推進

4. 大規模出水、津波等に対する被害最小化策の充実

- ・浸水により停止しにくい排水機場の耐水化を推進
- ・水門や樋門の機能確保のための遠隔操作化、自動化を検討
- ・水門や樋門の操作不能の場合の対処方策、構造対策の検討
- ・ダム放流設備の改善、事前放流の実施などの操作の検討

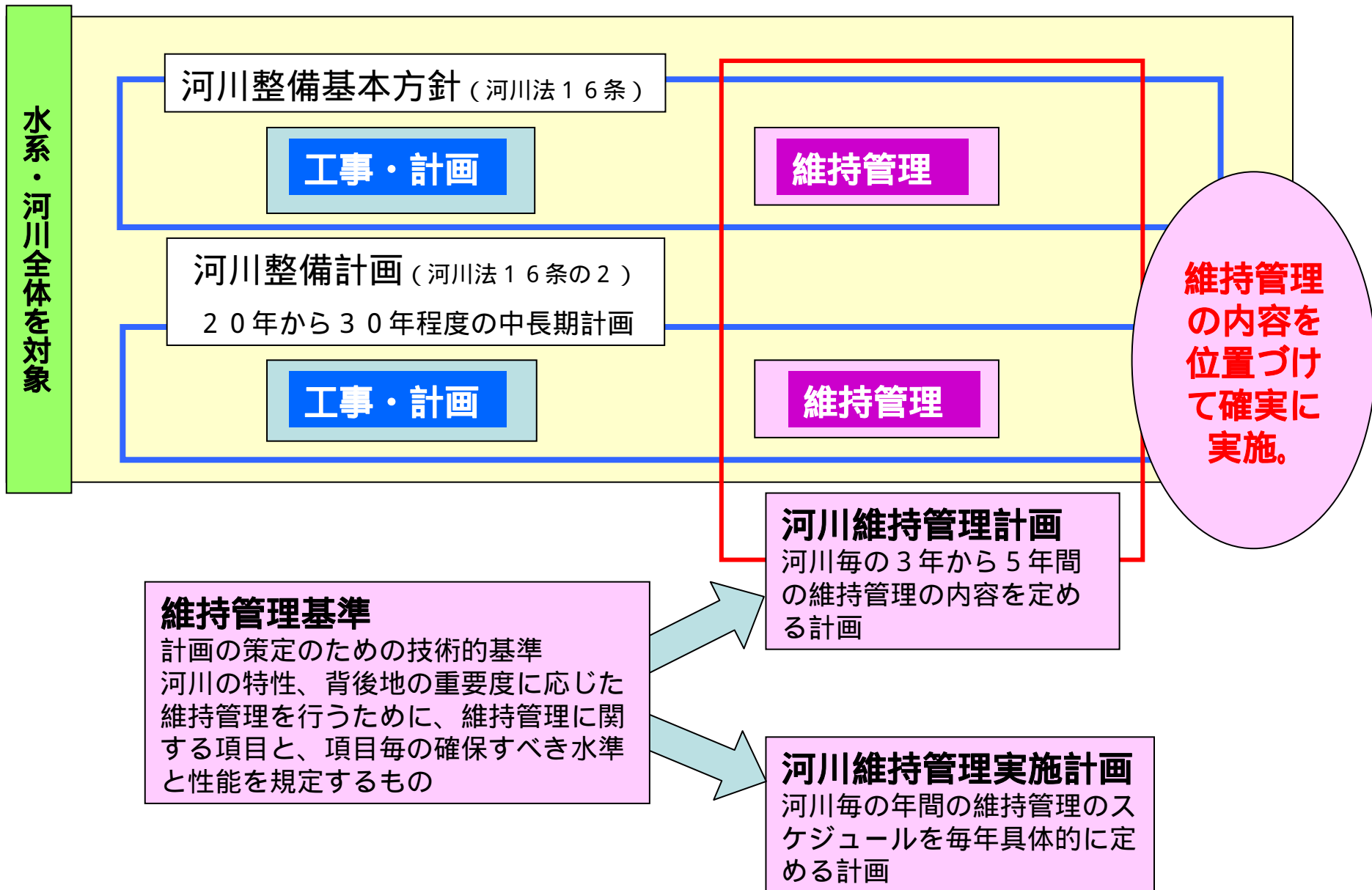
5. 水質事故対策の充実

- ・有害物質に関する研修等による担当者の意識向上
- ・大規模事故等における水門の閉鎖、上流ダムからの緊急放流等の被害最小化方策について検討

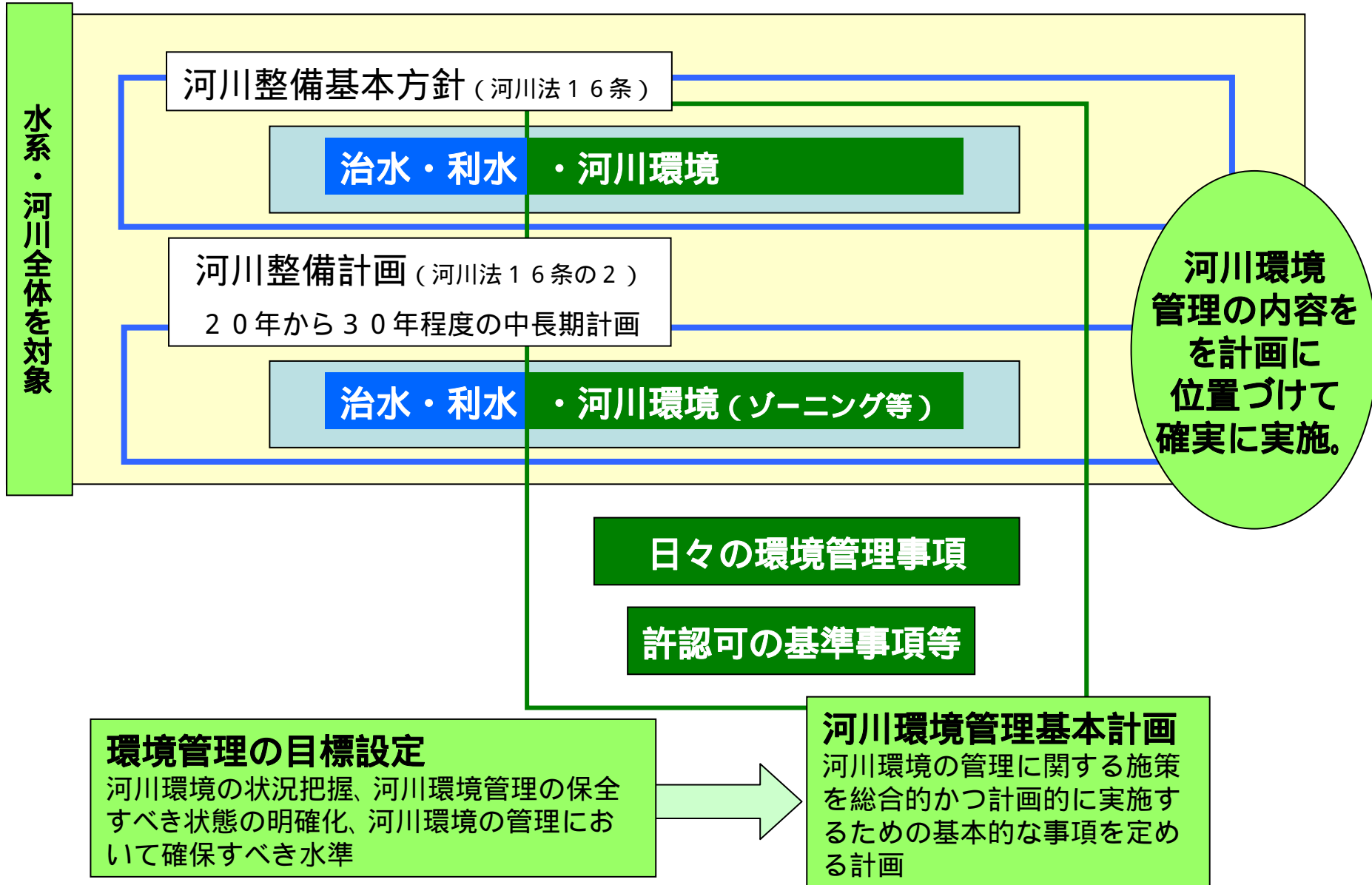
6. 事故・テロ等への対応策の検討

- ・事故・テロ等の発生を想定した訓練

2. 河川維持管理計画等の位置づけ



3 . 河川環境管理基本計画等の位置づけ



4 . 排水ポンプの運転調整のあり方

都市水害への対処

- ・ 氾濫域全体を視野に入れ、河川の氾濫と内水による浸水の両方を意識
- ・ 河川改修・維持管理、下水道の整備・維持管理を総合的に実施

排水ポンプの運転調整の原則

- ・ 河川の破堤による壊滅的な被害を回避、氾濫域全体としてのリスクを最小化
- ・ 破堤・氾濫する危険のある水位になった場合に運転を停止

河川管理者の責任において運転調整を行うことについて検討し、実効ある対応を図る

排水ポンプの運転調整に関する関係者間の合意が困難な場合が想定

大規模出水時における、河川管理者、下水道管理者等の排水ポンプ管理者等、関係者間の協力としての運転調整（事前のルール化）

・ 運転調整により内水被害が生じる地域を含め、リスクコミュニケーションによる地域的合意形成

- ・ 地域住民に河川の氾濫による壊滅的な浸水被害の危険性を認識してもらう
- ・ 排水機場の整備の早い段階から、内水浸水の防止の限界について理解を得る
- ・ 運転調整により浸水する頻度の高い地域における住まい方の誘導

・ あらかじめ排水ポンプの運転の方法を決めるための、河川管理者、下水道管理者等の排水ポンプ管理者、関係地方公共団体による意思決定の場や仕組み

- ・ 流域総合治水対策協議会の活用
- ・ 特定都市河川浸水被害対策法に基づく流域水害対策計画への位置づけを推進